

エリトリア便り No. 4

昨年末からアスマラ市内の朝晩はすっかり冷え込みが厳しくなりました。車のフロントガラスは霜が降りたような後すら見受けられます。出勤時は東京の真冬のような服装をしていないと凍えます。しかし、一旦日が昇れば気温はぐんぐん上がりポカポカ陽気。屋内よりも屋外の方が気持ちのいい程です。一日の寒暖差が激しい日々が続いております。



郊外の道路

1. 井戸端会談

年末年始休暇から戻った最初の週末。家に全くと言って良いほど食材が無いので、たんまり食材を買い込みました。買い物も終わって街中のレストランにて手紙を書きながら注文したお昼ご飯を待っていると、エリトリア人が話し掛けてきました。見掛けは60歳くらい。1970年代にカナダへ行ったことがあるとのことでした。(以下、エリトリア人：エ)



馴染みのカフェ

エ：第二次大戦からの日本の戦後復興はスゴイよな！

私：確かに凄かったですね。戦後、都心は一面焼け野原になったところから、今日の日本まで復興したのですから、我々のお祖父さん、お父さん世代がもの凄く頑張ったんだと思いますよ。

エ：単に頑張っただけではないだろう。それもあるが文化的、民族的な側面もあるだろう？

私：そうですねえ…、もともと日本人は勤勉な民族ですからね。また、お互いに助け合いながら頑張っていたと思います。しかし、この先の日本はどうなるか判りませんよ。何せ我々の世代は価値観が多様化して、一般的に“楽”を求めたりしていますから。

このお方、御国の将来を心配している様なので、ふと疑問に思った事を聞いてみました。

私：私の父親、もしくはお祖父さんの世代が我々の世代のことを“最近の若者は…”と不満とも採れることを漏らしているのですが、ここエリトリアではあなた方の世代から若者を見てどうですか？

エ：うーん。様々な問題はある。物質的な豊かさを求めすぎている。我々を含めて決して裕福ではないが、それは日本の戦後復興期とて同じであったろう。まずは、将来に対して悲観的にならずに前向きに考えるべきだな！

私：……。まずは精神的な部分からですか。



地元料理のカフェ

“欲しがりません！勝つまでは！！”そんな風潮すら感じさせる回答でした。エチオピアから独立して今年で18年目。日本の戦後18年目と言えば昭和38年。東京オリンピックに向けて高度成長真っ直中。ここはまだ戦後になっていない？

すっかり話すことに夢中になって、お互いにどういう立場か紹介していなかったので改めて自己紹介をすることに。聞くところによると大統領府に勤務されている方でした。アメリカで例えれば、オバマさんの側近？

2. エリトリア事務所が全 UNFPA のパイロットプロジェクトに組み込まれる

当初、本部 IT セクションの方がエリトリアへ来るのは昨年9月の予定でした。しかし、先方の都合で延期。今度は私が虫垂炎にて入院したため12月へ再度の延期。二度の延期を経て本部内では、出張中の目的が大きく変わっておりました。

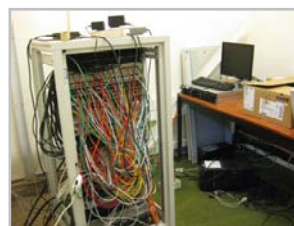
本部の方がエリトリアへ到着するほんの数日前、急遽色々とエリトリア事務所の IT に関しての調査依頼が来ます。それらに対応した後に到着した本部担当者。9月に予定していた内容から大きく変わったことを説明し始めます。そして最後に「エリトリア事務所は全 UNFPA 事務所のパイロットプロジェクトに選ばれたから」と言います。



会議室を占拠して作業

これまで本部と各国の事務所は直接ネットワークで結ばれていませんでした。しかし、今後は Internet 回線を通して VPN*を構築し、各国のサーバを本部から監視しようと言うことです。つまりは全世界の UNFPA 事務所を本部のコンピュータネットワークに組み込もうと言うのです。日本や先進国では本社と支社・支店間で同様の事を既に行っていますが、なんせここは途上国。通常は障害とならないようなことが障害となったりします。また、5日間の出張期間中に下準備を行いました。急遽決まった話なので全てがゴタゴタ。UNFPA が外部委託している関係会社との連絡が十分に採れておらず、また、本部とエリトリアの時差8時間も障害となり、出張期間中は中途半端な状態で終わり年越しをすることになりました。

年明けの週、休みボケがまだ抜けきらない私を余所に、本部は必死になってプロジェクトを進めようとしています。しかも本部の時間帯を中心にするので、どうしても作業開始は夕方から。そして私がエリトリア事務所内の同僚に対して十分に説明も出来ないまま、作業は強引に進行します。同僚は年明けで年間計画を本



部屋の片隅（右奥）に仮設

* Virtual Private Network の略。通信相手の固定された専用通信回線（専用線）の代わりに多数の加入者で帯域共用する通信網を利用し、LAN 間などを接続する技術。Wikipedia より

部へ申請する1月。こちらの事情を本部へ話しても背後に何か大きな理由があるらしく「UNFPA全体のプロジェクトだから、こちらが最優先」と押し切られ、同僚達に迷惑を掛けつつ作業が進行します。

電子メールの送受信、Internetの回線スピードがすっかり遅くなってしまった当事務所。“パイロットプロジェクト成功後は主要事務所から始めて、小さな事務所はその後”と言われているだけに、総勢14名の小さな当UNFPA Eritrea事務所は間違いなく後回し。パイロットプロジェクトに選ばれたことによって、どこよりも先に本部と繋がるようになったのは、果たして良かったのか？悪かったのか？

国連人口基金エリトリア事務所
情報ネットワークオフィサー
瀬畑陽介